市立図書館

◆休館日のお知らせ

蔵書点検・図書整理等を行うため休館します。

【臨時休館日】
本館＝3月5日（火）～3月7日（木）
香北分館＝3月4日（月）
物部分館＝3月8日（金）

【休館日】
本館・物部分館は月曜日が休館。香北分館は火曜日
※祝日の場合は翌日

◆「子ども司書」養成講座

市教育委員会の主催で、昨年度から小中学生を対象に実施している「子ども司書」養成講座（基礎研修・実技・実地研修・専門研修）が1月に終了しました。受講生21人が懸命に取り組む姿勢が印象的でした。受講生は小中学校や図書館で次のような実地研修を行いました。今後も活動を続けていきます。

◆読み聞かせ（全校読書タイム・就学児検診・校内読書月間・ペア読書のときに行う）
◆POP作り（本の紹介文作り）
◆「子ども司書お薦めの本コーナー」設置
◆校内放送で新着図書やお薦めの本の紹介・読書クイズを作成し、全校生徒にチャレンジしてもらう。
◆蔵書受け入れ、除籍作業
◆季節の掲示物作成

【学校・市立図書館の声】
・「子ども司書」による読み聞かせ活動で「朝の読書」が充実してきている。
・傷んだ本や迷子の本がそのまま放置されている状態が全くみられなくなった。
・「子ども司書」の数も増え、読書感想文やショートコンテストへの応募数も増えてきた。
・「子ども司書」の資格取得により授業での発言や、学校生活の中で積極的に活動できている。
・季節の掲示物作成により、図書館が明るくなり、季節ごとの変化を楽しみにして図書館に来るようになった。
・市立図書館においても「子ども司書講座」参加者が、友だちを誘って来館し、小学生の来館者数が増加している。

このように、いろいろな活動を通して読書リーダーが育っています。

おすすめの1冊

幾千の八重の紅きを産み終えて椿ゆたかに眠る深更▷吾もまた無名の闇をゆくひとり高く翔べざる秋蝶一つ▷素の瓶を溢れたるもの密やかにわが水脈とつひに交はる

「歌集 天のみづおと」
（作：中西敏子）

この3首目は、中西さんが感性の合うものと巡り会ったときの喜びを詠んでいます。父親のような慈愛の目で後書きを寄せている山名康郎さんと中西さんとの感動の出会いを思わずにはおれません。大きく普遍を詠む心象歌。どの歌も思いが溢れ感動の1冊です。（土佐山田町　M子）

新着本の紹介（本館）

〔大人向け〕
▽abさんご（黒田夏子）▽何者（朝井リョウ）▽等伯（安部龍太郎）▽欠落（今野敏）▽孤独な放火魔（夏樹静子）▽50歳をすぎたら家の整理を始めなさい（近藤典子）▽作って楽しむお雛さまとつるし飾り▽乳がん、あなたらしい治療を選択するために（山内英子）▽経済大陸アフリカ（平野克己）

〔子ども向け〕
▽おばけのアッチとおしろのひみつ（角野栄子）▽かいじゅうのさがしもの（富安陽子）▽どうぶつえんのおふろやさん（とよたかずひこ）▽もっと生きたい臓器移植でよみがえった命（池田まき子）▽よくわかる再生可能エネルギー（矢沢サイエンスオフィス編）▽楽しくあそべる絵かきうた120曲▽いいこでねんね（デヴィッド・エズラ・シュタイン）

工科大学からの長期貸し出し本

今年も高知工科大学付属情報図書館から、長期貸し出し図書が届きました。ぜひ、ご利用ください。

Pick Up! 新美南吉生誕百年記念
『木のまつり』
作：新美南吉

原っぱの木に白い花がいっぱい咲いて、チョウもホタルも集まって楽しいおまつりです。美しい情景が描かれています。

香美市文芸　風の流れ

【短歌】　岡崎　桜雲　選

雀等（すずめら）はいづくに居るやこの秋も二番稲まで豊作なるに　小原　子川
おはようと声をかければおはようと今日も元気でいるしあわせよ　公文多賀子
人生もいつしか六十路半ばなり師走の風にリュウキュウ揺れて　小野寺朱実
八十の妻に代わりて正月のリンゴの兎（うさぎ）嫁の手早に　小松　隆之
御在所山は遥か北東その裏にわが故郷（ふるさと）としばし眺むる　森本　幸美
ゆうゆうと湖畔を泳ぐ鴨（かも）の群れこもれ陽あびて静かなるとき　近藤　由美
誕生餅背負わされ泣く孫につい手をそえ歩む目頭熱く　楮佐古きよ
命名を祝（ほ）ぐ霜月の空冴えて成希（なるき）と届く今日は大安　岡田美代子
弟は老いてさまよふ事もなく日々感謝のみとホームに暮らす　法光院俊子
花二つつけしサザンカの苗を買うたのしみて行く山田日曜市　門田　喜美
花びらの形に刻みし人参を月命日の膳に添へたり　山崎　貴子
孫姉妹新婚に結納整いて花よ心よわが両手に花よ　高野　和一
与ふれば即ちサンキューと鈴のころ米人の園に曽孫二歳　大岸由起子
天候の恵みありしか今年の大豆の粒は色よく弾く　小松　敏子
耀（かが）よえる早春の河窓に見て子らと昼餉（ひるげ）のわが誕生日　坂上のぶ子
冬去れば春来るものと知りおれど九十歳の寒の永さよ　山本　太幸
みなさまのお世話になりし日々のこと夜空にしのぶしづかなる庭　門脇　千代
老いてなお励みいる身を追い駈（か）ける北山越えの寒のしぶきが　韮生　灯
九十年も生きればそりやあと申したしみえざりしものの視える話に　小野川恵仁
初詣で盛運かけし合掌に伝わる血潮ときめきいたり　谷内　務
天地（あめつち）の神おろがみて新玉の年の始めを寿（ことほ）ぎており　公文　千恵
啄木の今世に在らば閉塞のこの現世（うつしよ）を如何（いか）に詠まんや　吉本　悦子
「もういいよ」三人のひ孫かくれたり見つかりにくいふりをする吾　門田　明子
千六本に下ろせる大根みづみづし朝日に輝（てる）をえびらに広ぐ　公文　正子
いちょうの葉舞い散り根元のおおわれて黄色の円の一樹となれり　小松　禮子
眠剤を切らしましたか気の毒に「ピロピリン」と夜半充電器が鳴る　竹村　咲子
歴代の内閣支へしブレーンの幾人あるらむ名も知られずに　古川　安子
携帯で夫（つま）より知らせの届きたり東の空の二重（ふたえ）の虹を　大石　綏子
雨上がり朝陽に田面の湯気ゆるる地中の酵素吹き出づるがに　武内　弘子
人並に笑つて泣いてつつがなく生きゐる喜び新春となる　林田　幸子
柴田トヨ「くじけないで」展見終われり吾が母の声し姿がうかぶ　松中　賀代
夕日とは悲しきものか時を経て今日の一日の別れを燃ゆる　高橋　章
うす日差す野の上跨（また）ぐ冬の虹はかなしとのみ見るになけれど　佐竹　玲子
空青く稜線にわく白き雲風さわやかに秋のおとずれ　横田直加子
みずいろの空の海原ぽっかりと浮かびてすける昼月ましろ　大石紗智子
睡蓮鉢（すいれんばち）むらさきピンク互いに咲きめだかもいっしょに吾を楽します　山崎　緑
調味料計りなおすも幾度か時のかかりてゴーヤの佃煮　竹村　稔美
雪降れば生協も来ぬといふ山にひとり住むのはさびしからうに　都築　初代
ちぎれんばかりにゆれている庭のコスモスこの花に例えられし母逝きて十五年　古谷　由美
ゲンノショウコの花弁散れる水汲み場に甲白き蟹（かに）は今日横切らず　佐々木真里
回覧を持ちし隣に猫五匹毛布のごとく寝そべりて散る　伊藤　清子
朝風呂の眼下に見ゆる瀬戸の橋虹はうっすら霧の向こうに　宮地　亀好
行進は五十四番目に行いて鳴子掲げてアピールをせし　森本眞理子
葉の煮汁（にじる）友のその後も枇杷（びわ）の花厨（くりや）に匂ふ今宵の思ひ　林　敏子
穏やかに生きむ願ひのこの朝のこころが清き真砂（まさご）を歩む　小松もとみ
元日の街を暴走くり返す君らにも良き未来あれかし　岡崎　桜雲

※掲載を希望される方は、掲載月の前月1日までに、総務課内広報委員会事務局へご応募ください。

【投稿先】香美市役所総務課内広報委員会事務局「俳句・短歌」係
〒782－8501（住所記載不要）
FAX 53－5958